

平成25年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	国際連合国際防災戦略事務局 (UNISDR) 拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	国際協力局		作成責任者		
事業開始・ 終了(予定) 年度	平成16年度開始		担当課室	地球規模課題総括課		飯田 慎一		
会計区分	一般会計		政策・施策名	Ⅶ-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る 国際貢献				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、 通知等	第54回国連総会決議(A/RES/54/219) 第54回国際連合総会決議54/219(2000年) 第56回国際連合総会決議56/195(2002年)				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	UNISDRは、唯一の防災に特化した国際機関であり、国際防災協力を推進している。具体的には、国連防災世界会議で採択されたグローバルな防災戦略である「兵庫行動枠組2005-2015」のフォローアップの中心的役割を担っている。兵庫行動枠組(HFA)は各国がその実施を要請されており、UNISDRはその実施を支援するとともに、進捗のモニタリング及び報告を行っている。我が国は、防災大国としての経験・知見を活かし、国際防災協力を積極的に進めていることから、同事務局の活動を支援している。							
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	UNISDRを通じて、主に途上国における災害被害の軽減を、以下の活動を通じて実施する。 1 兵庫行動枠組2005-2015のフォローアップ 2 各国政府、国際機関、地方自治体、防災センター、有識者等の協調・連携強化 3 防災に係わる知識・情報の共有 4 気候変動適応策としての防災対策強化							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☒ その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	79	69	67	67		
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
	計		79	69	67	67		
	執行額		79	69	67			
執行率(%)		100	100	100				
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	兵庫行動枠組の推進(国家レベルで防災調整メカニズム を設置した国数) (注)機関全体の目標及び実績		成果実績	国	73	81	83	193
			達成度	%	38%	42%	43%	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	①国際防災会議の開催(隔年) ②国連世界防災白書の作成(隔年) ③都市防災キャンペーン等の実施 (注)機関全体の指標及び実績		活動実績 (当初見込み)	①国 ②国 ③都市	①- ②- ③160都市	①168ヶ国 ②113ヶ国 ③718都市	①- ②- ③1050都市	- ()
単位当たり コスト	0.34(百万ドル/国)		算出根拠	2011年のUNISDR総事業費(29百万ドル)÷(83カ国(存在する防災調整メ カニズムの合計国数))=0.34百万ドル)				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内 訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	国際連合国際防災戦略事 務局(UNISDR)拠出金		67					
計		67						

事業所管部局による点検						
	項 目		評 価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	防災分野の国際協力は、近年我が国をはじめ多数の国で大規模自然災害が多発する中、国民のニーズがあり、優先度が高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		-			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	UNISDRは国際防災協力を推進する唯一の国際機関であり、支出先として妥当。その事業では、途上国をはじめとする多数の国において防災調整メカニズムの設置、兵庫行動枠組の国内実施支援及び、国内実施報告書作成を支援しており、これは災害被害の軽減という目的に照らし真に必要な事業である。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	UNISDRは、2015年までの国際防災戦略として「兵庫行動枠組」を策定し、右戦略に照らした2年毎の事業計画を作成しており、適切な成果目標のもと達成度を着実に向上させている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	UNISDRは、防災に特化した唯一の国際機関である。国際的にも防災に関する関心は高まっており、同機関が開催する防災の国際会議である防災グローバルプラットフォームの参加者も増加している。防災は、先進国の中でも我が国が主導的な役割を担っている分野であり、同機関を通じて東日本大震災を始めとする我が国の被災の知見や教訓を世界と共有する意義は大きい。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	119	平成23年	119	平成24年	144